

# 第 3 部

## 資料



人権研修のための参考文献リスト

作成：栗本敦子 ((Facilitator's LABO (くえふらぼ))

書名	著者	発行年	出版社
人権教育ファシリテーター・ハンドブック 基本編	角田尚子 ・ERIC 国際理解教育センター著	2000	ERIC 国際理解教育センター
いっしょに考えて！人権 —人権教育ファシリテーター・ハンドブック 発展編		2002	
いっしょにすすめよう！人権 —人権教育ファシリテーター・ハンドブック 実践編		2002	
対立から学ぼう —中等教育におけるカリキュラムと教え方	ウィリアム・クライドラー著	1997	
レッツ・コミュニケーション！	角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著	2001	
参加型で伝える12のものの見方・考え方	ERIC 国際理解教育センター編	1997	
多様性トレーニング・ガイド—人権啓発参加型学習の理論と実践	森田 ゆり	2000	部落解放人権研究所
多様性教育入門 —参加型人権教育の展開	大阪多様性教育ネットワーク・森実	2005	解放出版社
クイズウルトラ人権100問	辛淑玉監修	2005	解放出版社
ワークショップ —新しい学びと創造の場	中野民夫	2001	岩波書店
ファシリテーション革命	中野民夫	2003	岩波書店
新グループワーク・トレーニング	日本レクリエーション協会監修	1995	遊戯社
ファシリテーター・トレーニング —自己実現を促す教育ファシリテーションへのアプローチ	津村俊充、石田裕久編	2003	ナカニシヤ出版
人間関係トレーニング —私を育てる教育への人間的アプローチ	津村 俊充、山口 真人	1992	ナカニシヤ出版
人間関係づくりトレーニング	星野 欣生	2002	金子書房
参加型ワークショップ入門	ロバート チェンバース	2004	明石書店
対立が力に グループづくりを生かせる体験学習のすすめ	ウィリアム・J・クレイドラー	2001	みくに出版
静かな力 子供たちに非暴力を教えるための実践マニュアル	ステファニー・ジャドソン	1995	嵯峨野書院
協調的交渉術のすすめ	エレン・レイダー/スーザン・W・コールマン	1999	アルク
問題解決の交渉学	野沢聡子	2004	PHP 新書
参加型学習のすすめ方	廣瀬隆人・澤田実・林義樹・小野三津子	2000	ぎょうせい
ワークショップ「気づき」から「行動」へ	(財)人権教育啓発推進センター	1997	(財)人権教育啓発推進センター

人権研修のための参考文献リスト (自治体作成 1)

(社)部落解放・人権研究所図書資料室「りぶら」所蔵

書名	著者	発行年	発行元
結婚? 幸せ 人権学習シリーズ vol. 1	大阪府人権協会	2003	大阪府企画調整部人権室
働く(work) 人権学習シリーズ vol. 2	大阪府人権協会	2004	大阪府企画調整部人権室
暮らす 人権学習シリーズ vol. 3	大阪府人権協会	2005	大阪府企画調整部人権室
ちがいのとびら: 多様性と受容 人権学習シリーズ vol. 4	大阪府人権協会	2007	大阪府企画調整部人権室
人権学習プログラムづくりの原理 人権学習カリキュラム検討委員会報告書	大阪府人権協会	2006	大阪府企画調整部人権室
人権ワークショップによる大阪市人権啓発推進員リーダー養成研修 基本テキスト集	部落解放・人権研究所啓発企画室	2004	大阪市人権啓発推進協議会
人権ワークショップによる大阪市人権啓発推進員リーダー養成研修 基本テキスト集	部落解放・人権研究所	2006	大阪市人権啓発推進協議会
チャレンジ! 2 参加・体験人権学習実践記録	1999年度同和主担者人権啓発推進者 宿泊研修研修プロジェクトチーム 堺市 職員自主研究グループ「りれーしょんず」	2000	堺市職員自主研究グループ「り れーしょんず」
チャレンジ! 3 人権ワークショップ【参加・体験人権学習】実践記録	堺市職員自主研究グループ「りれーしょ んず」	2001	堺市職員自主研究グループ「り れーしょんず」
チャレンジ! 4 人権ワークショップシンポジウム【新たな人権ワークショップの創 造に向けて】記録	堺市職員自主研究グループ「りれーしょ んず」	2002	堺市職員自主研究グループ「り れーしょんず」
人権学習教材 ある! ない? 大事典: あなたの周りでごんごんことな〜い?		2006	茨木市人権センター
津島市人権教育推進のための調査研究事業報告書 平成17年度版「人権教育推 進のための調査研究事業」モデル事業 平成17年度(参加体験型学習講座・研修 視察・座談会事業等)	島津市人権教育調査研究委員会	2006	愛知人権フアンクション委員会
人権ワークショップ開催記録集 2003年(平成15年)度	奈良県生活環境部人権施策課	2004	奈良県生活環境部人権施策課
人権ワークショップ教材集 置き放ちのおもちゃ箱		2005	滋賀県人権センター
楽しく学び合うワークショップ	滋賀県企画県民部同和对策課国際理解 教育情報センター 米田伸次	1999	滋賀県

人権研修のための参考文献リスト (自治体作成 2)

(社)部落解放・人権研究所図書資料室「リぶら」所蔵

書名	著者	発行年	発行元
人権ワークショップ教材集 わたし解き放ち		2004	滋賀県人権センター
わたし はっしん! 人権ワークショップ教材集	人権教材作成プロジェクトチーム	2006	滋賀県人権センター
NEWSな人権 新聞記事から考える人権ワークショップ	人権学習教材作成プロジェクトチーム	2007	滋賀県人権センター
参加型人権学習教材	三重県	2000	三重県
参加型人権学習の手引き	三重県人権問題研究所	2000	三重県生活課人権室
人と企業と生き方と 企業内研修用教材 同和問題編 1～3	三重県人権問題研究所	2003	三重県
人と企業と生き方と 企業内研修用教材 障害者の人権問題 1～3	三重県人権問題研究所	2004	三重県
人と企業と生き方と 企業内研修用教材 外国人の人権 1～3	三重県人権問題研究所	2005	三重県
人権教育指導資料 II ワークショップ 上	岡山県教育庁人権・同和教育課	2004	岡山県教育庁人権・同和教育課
人権教育指導資料 III ワークショップ 下	岡山県教育庁人権・同和教育課	2005	岡山県教育庁人権・同和教育課
愛と夢とぬくもりを 参加型人権・同和教育指導資料集	高知県教育センター同和教育部	1999	高知県教育センター
人権教育指導資料集 平成15年度(2003年度)	長崎県教育庁生涯学習課人権・同和教育室	2004	長崎県教育庁生涯学習課人権・同和教育室
教材資料集「…を50分で学習する」参加型学習の展開と、「人権」を考える授業	教材資料集「…を50分で学習する」編集委員会	2001	長崎県部落史研究所
きりひらく 2	大分県高等学校人権・同和教育研究会 人権学習実践資料編集委員会	2002	大分県人権・同和教育研究協議会
豊かな人権文化をめざして 参加型学習啓発資料	熊本県教育委員会	2001	熊本県教育委員会
豊かな人権文化をめざして 参加型学習啓発資料	熊本県教育委員会	2002	熊本県教育委員会
じんけん 1 参加体験型人権学習指導案集	熊本市教育委員会人権教育指導室	2004	熊本市教育委員会人権教育指導室
豊かな人権感覚を育むために 人権教育推進資料 平成17年度 参加体験型学習 の手法を生かした授業事例集	熊本県教育委員会	2006	熊本県教育委員会

# ■資料 2007年度部落解放・人権大学講座 ゼミナールコース プログラム

## Step 1 2007年6月2～3日

どうしてワークショップ？ なのためのファシリテーター？ あらためて考える参加型

### 1日目 (6/2)

- 10:05 起きた時間でラインアップ<全体>  
ネームチェーン→WSに参加してから  
の年数でネームチェーン
- 10:25 ペアで自己紹介(傾聴) 1分ずつ  
<ペア>・WS参加体験・F体験
- 10:30 今回の講座への期待と不安<ペア>  
→<全体>で共有
- 10:50 今までの45分のプロセスふりかえり
- 11:05 ルールづくり<ペア・共有>→刺激的に  
するアイデア
- 11:27 参加者自身でルールをつくる意味<ペ  
ア・共有>  
(11:35~11:45 休憩)
- 11:45 参加者アンケート  
<4グループ→全体共有>  
→集中・分析・気づいたこと発見したこ  
と  
(12:45~13:45 休憩)
- 13:45 4つの自己紹介1つはウソ<全体>
- 14:10 参加型WSについて知っていること/  
知りたいこと →参加型の特徴<グル  
ープ→全体>
- 14:25 アクティビティを出し合おう  
<個人→全体>
- 14:55 小講義「アクティビティとは」[経験学  
習の4段階]  
(15:05~15:10 休憩)
- 15:10 ミラー <ペア>
- 15:25 ヒューマンチェーン <全体>
- 15:30 結婚の条件 <3人G→共有>  
(16:30~16:35 休憩)
- 16:35 人権WSと他のWSの違い  
・さまざまな人権課題をとりあげる際の  
可能性と留意点 <G→全体>
- 17:15 ふりかえりのe q i <全体>
- 17:30 終了

### 2日目 (6/3)

- 10:00 ウォーミングアップ<全体>  
からだまわし、エネルギー送り
- 10:15 1日目のふりかえり<ペア→共有>
- 10:40 ルールの点検<ペア→共有>  
(資料配布)  
「心地よい」と「安全・安心」  
(11:27~11:35 休憩)
- 11:35 「差別と人権」言葉と定義<全体>  
グループわけ
- 11:45 おとなが効果的に学ぶ場をつくるため  
にファシリテーターがすべきこと<G  
→共有>  
(12:45~13:45 休憩)
- 13:45 ファシリテーターのもつ恐怖<ペア>  
→“悪夢”のシチュエーションづくり&  
解決<ペア→全体→ペア→全体>  
(14:55~15:05 休憩)
- 15:05 2つの帽子<G→共有>
- 15:40 人権ファシリテーターの介入の指針<  
グループ→共有>
- 16:00 介入の仕方を考える<ペア→共有>  
・被差別の当事者が語りだした  
・差別発言、傷つける発言があった  
・攻撃的・暴力的な言動  
・感情が激している  
(16:42~16:45 休憩)
- 16:45 ファシリテーターにのぞましい条件<  
個人 Best 3→Gランキング>  
→人権啓発ファシリテーターにのぞま  
しい条件5つ<G→共有>  
2日間のふりかえり
- 17:15 終了

# ■資料 2007年度部落解放・人権大学講座 ゼミナールコース プログラム

Step2 2007年6月16日

午前

講演「部落問題に関する差別意識と人権意識の  
かわりについて

—2005年大阪府民意調査より—

報告 時岡 新(金城学院大学)

後

「概念からアプローチする人権」

角田尚子(ERIC 国際理解教育センター)

セッション1 共通基盤づくり 13:15~15:00

13:15~

1. 話し合いのルールづくり「深める学びあいのための心掛け」[ペアで1分→全体共有、模造紙に板書]
2. 出された意見から、三つを選んで具体的なハウを共有する。[ペアで2分→全体共有、模造紙に板書]

- ・「わからないことは聞く」
- ・「批判的にフィードバックする」
- ・「ノートを取るか、取らないか」

3. さらに、「直観的/直感的に学ぶ」とはどのようなことかについて、深める。[ペアで2分→全体共有、模造紙に対比表「いい点/危険な点」]

14:00~

4. 「さまざまな感情」でこれまでの自分自身の心の動きをふりかえる。
5. 「学びを促進するもの/阻害するもの」で分析する。[4人一組のグループ3つ、5人のグループ一つに分かれる。対比表]
6. 学びの場づくりの心がけ

14:25~

7. 対象について理解する。「午前中の調査報告からの枠組を活用する」
  - ・「受容的/拒否的」をY軸に、「有意義/無意義」をX軸にとった二次元表で、4つのカテゴリーの人々に対する手だてを考える
8. 全体で共有。気づいたこと・感じたこと・

学んだこと

(15:00~15:15 休憩)

セッション2 「識字の暴力」について考える

15:15~17:45

15:15~

1. 「勢力観」についての4つのコーナー [その後グループの編成を変える]

15:20~

2. 人類の歴史 [ミニレクチャー]

15:32~

3. 資料「識字の暴力」を読む

15:37~

4. 識字の暴力について、共通理解を深める [連想図] 7つ以上、3段階以上<4人G>

16:00~ 安藤昌益「三教からの解放」

5. 三つの家族とその社会の「識字」の状況を類推する [「地球家族」の写真を使って]
6. ネクストステップをデザインする。[ここまで分析してきた、「行動化」につなげていくための次の作業として何がやりたいかをグループで話し合う。]

16:37~

○よりよいQOLと識字

- ・識字社会の脱暴力
- ・口で伝えた方がいいことって何?

○今の日本における識字の課題

○識字と解放運動 いい点/危険な点

- ・識字の歓びと識字の差別、限界
- ・無文字文化のこれから

○無文字文化から学びたいこと、識字以外のつながり方

○力の格差を差別につなげない

7. 上記から考えたいテーマの希望によってグループ分け [○印が選ばれたもの]

8. 全体で共有 [模造紙に板書]

9. サークルタイムでふりかえり

**■資料 2007年度部落解放・人権大学講座 ゼミナールコース プログラム**  
**Step 3 2007年6月30日～7月1日**

**1日目 (6/30)**

- 10:00 Step 1～2の振り返り<全体>
- 10:10 出欠状況に違いのある参加者がともに学ぶためのルール・心がけ<ペア・共有>
- 10:30 アクティビティ/教材を創りだすための話し合いの原則<ペア・共有>
- 10:40 部落問題との出会い～人生の河  
 <個人→3人G (しゃべったことのない人、年代や地域の違う多様な人とGになる)>
- 11:20 なぜ参加型で部落問題を行うのは難しいのか? 方法別で (「参加型でつたえる12のもの見方、考え方」をもとに)  
 <6つのG⇒共有>
- ・ブレインストーミング
  - ・因果関係図
  - ・対比 (環境問題と人権問題の対比)
  - ・対比表—他の様々な人権課題と部落問題の比較
  - ・2面連想図—可能性と懸念
  - ・リストと分析—特徴・課題・背景・時間
- 12:00 発表、共有  
 (12:20～13:20 昼休み)
- 13:20 「身近なこと・具体的なこと」から考えることと「概念・原理原則」から考えていくこと、それぞれの利点と限界 [マトリックス]
- 13:40 部落問題を扱う人権啓発で伝えたいことは (市民啓発・企業啓発・学校・その他のグループで)  
 アクティビティづくりの基本と「12のもの見方・考え方」  
 素材をもとにアクティビティを創るとは? あなただったらどう創る?  
 部落問題について 伝えたいこと/とりあげたい素材  
 グループに分かれて教材づくり

**2日目 (7/1)**

- 各グループから実践
- 10:00～10:45 準備・順番  
 評価の指針づくり
- 10:45～11:30 カムアウト・立場宣言
- 11:30～12:15 当事者の語り/痛み・誇り  
 (昼休み)
- 13:15～14:00 差別用語・差別発言
- 14:00～14:45 土地差別  
 (休憩)
- 14:55～15:40 部落のイメージ/“こわい”意識
- 15:40～16:25 忌避意識/結婚差別  
 (休憩)
- 16:35～17:15 全体ふりかえり

**■資料**

**同和問題に関する参加型学習教材開発研究会記録**

2007年

10月17日

報告『『識字BOX』の開発と実践の経験について』廣瀬聡夫さん(NPO法人ダッシュ)

11月30日

報告「参加型学習の光と影」渥美公秀さん(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)

12月14日

報告『『2005年大阪府民意調査』結果から啓発の課題を考える』時岡新さん(金城学院大学)

2008年

1月16日

「報告書の発行に向けて」

# 執筆・協力者

## 第1部

---

2007年度部落解放・人権大学講座ゼミナールコースでの議論をもとに事務局が原稿を作成し、講師の栗本敦子さん（Facilitator's LABO くえふらぼ）に加筆・修正いただいた。

それぞれの人権教育・啓発の経験から、活発な議論とワークショップの実践に取り組んでいただいた、2007解放大学ゼミ生のみなさまに、心から御礼申し上げます。

## 第2部

---

上杉孝實（畿央大学教授）

時岡新（金城学院大学）

渥美公秀（大阪大学コミュニケーションデザインセンター）

廣瀬聡夫（元NPO法人ダッシュ）

「同和問題に関する参加型学習教材開発研究会」執筆者以外のメンバー

浮穴正博（部落解放・人権研究所啓発企画室室長）

井村 紘（部落解放・人権研究所啓発企画室主事）

新木敬子（部落解放・人権研究所啓発企画室）

栗本知子（部落解放・人権研究所啓発企画室、本事業事務局）

## 協力

---

奥田均（近畿大学教授）

許輝子（とよなか人権文化まちづくり協会）

中山久夫（クラシエホールディングス株）

西田真哉（トヨタ白川郷自然学校校長）

吉田一子

米田知世（部落解放・人権研究所図書資料室）

2007年度部落解放・人権大学講座参加者

部落解放同盟愛知県連合会

国際識字年推進和泉連絡会

名張市人権・同和教育推進協議会